

杏林

KYORIN DAIGAKU SHIMBUN

大学新聞

1面	"君の夢の実現を支えたい"	5面	卒業生、在学生リレー ラジオパーソナリティ 横田かおりさん 外国語学部 市川アリサさん
3面	実社会からの学び本格スタート 「地(知)の拠点整備事業」	杏林年代記(8) 保健学部誕生 - 1979年の杏林学園	
4面	杏林見聞録③ 保健学部 河野眞准教授 海外留学者が急増 実績あがるグローバル教育	6・7面	学部・大学院トピックス クラブ・サークル紹介
		8面	【連載】金田一教授の研究室から 健康ひとくちメモ、数字でみる杏林大学

“君の夢の実現を支えたい”

一人ひとりの力をのばす授業・キャリア形成・成果発表・課外活動

夢をかなえるために学業レベルのさらなる向上に励む学生、必要な資格取得に向けて努力する学生、自分の進路をこれからじっくり探そうという学生——キャンパスに集う学生の姿は様々ですが、本学の教職員は、「教育」という言葉が本来意味する“能力を引き出す”ために全力で支援しています。今号では、夢の実現をめざす学生・夢をかなえた卒業生と、彼らを支える教職員4組に語っていただきました。



八王子キャンパスのシンボルともいえる時計塔（I棟）。正門からつづく通称“杏林坂”の正面にそびえ建つ時計塔は、行き交う学生たちを見守り続けている



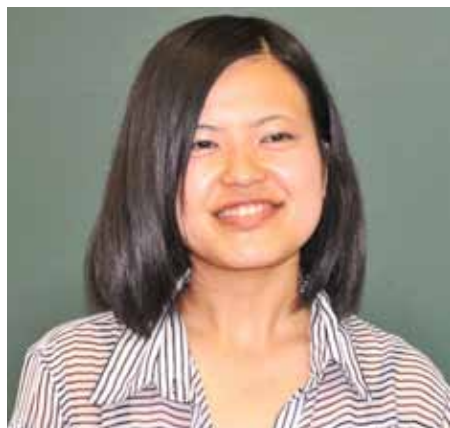
生徒を夢中にさせる授業ができる先生になりたい

——中国語を学ぶきっかけを教えてください

砂川：地元沖縄では、中国人の友人がいたり、地理的・歴史的にも中国との関係の深さを感じていました。

高校1年生ではじめて中国語を習ったのですが、先生が授業中に教えてくれる中国の話はとても興味深く、面白かった。生徒をこんなに夢中にさせる授業ができる先生になりたいと思いました。

中国語が勉強でき、教師になれる大学を調べていたら、藤田先生の存在にたどり着きました。それで杏林を受験しました。



——最初はどのような授業をするのですか

砂川：最初に苦労したのは発音です。日本語にない音がたくさんあって、顎が外れるかと思いました（笑）。

1冊のテキストをネイティブの先生が交代で教えてくれるので、いろいろな中国語にふれることができます。2cmほどある分厚いテキストを半年でやりきると聞いたときは、すごい大学に来てしまったと一瞬不安になりました。

藤田：初めはみんな分厚い北京語言大学のテキストに驚きます。でも、1クラス学生約10人に対して先生1人がついて丁寧に教えるので、基礎の文法は一通り1年生で覚えることができます。2年生の砂川さんは、いま会話やリスニングを中心に学んでいるところですね。

——留学生やネイティブ教員が大勢いますね

砂川：中国語サロンや留学生との交流会に参加して、留学生の友達が増えました。ネイティブ同士のようにはいきませんが、彼女たちとは中国語で話をしています。

宮首弘子（張弘）先生はじめネイティブの先生は教科書にない言い回しを教えて

藤田：私も在学中に半年間の留学を経験しました。留学は、勉強したことが言えた、通じた、相手の言うことが聞き取れた、楽しい、もっと勉強したい、など学習のモチベーションを上げることにつながると思います。砂川さんはこれから留学ですね。

砂川：8月から半年間、中国・広東外語外貿大学に留学します。勉強を頑張り、たくさん友達を作って、観光もしたい。きっとあつという間だと思います。

授業中も留学先で使えるようなフレーズを書きとって覚えるようにしています。

藤田：学習すべてが留学生活に関わるから、

スタートクラス」で基礎を覚え、2年生で留学を意識した内容の勉強をします。3、4年生は協定校からの中国人留学生との混成クラスで、通訳者として現場経験の豊富な教師陣の指導のもと、ビジネス会話や通訳・翻訳の授業にもチャレンジします。

この間、楽しみながら語学力を身につける中国語合宿、実力試しの中国語検定やスピーチコンテストに参加したり、外国語学部ならではの英語やホスピタリティも学び、知識の幅を広げることができます。ステップアップに繋がるわくわくポイントがちりばめられたプログラムを組んでいます。



砂川：留学を終えたら、コンテストに出たいです。昨年、朗読大会に向けて先生はとても熱心に指導をしてくれました。恩返しのためで留学の成果を見てもらいたいです。

藤田：楽しみながら勉強する砂川さんの姿は他の学生の刺激になります。私たち教員はみんなにそう感じてもらえるよう頑張ります。

中国語がおもしろい

丁寧な指導と、着実に実力がつく教育プログラムを用意

外国語学部中国語学科 2年
砂川 有沙 (すながわ ありさ)

沖縄県立向陽高等学校出身。
今年6月の中国語検定で3級に合格

くれたり、地元の話聞かせてくれるので、ますます興味がわきます。

藤田：八王子キャンパスにはネイティブ教員や留学生と楽しく会話ができる語学サロンや留学生との交流イベントなど、中国語にふれる機会がたくさんあります。

砂川さんのように普段から留学生やネイティブ教員と接していれば、いろいろな角度から中国の様子を知ることができます。

——留学について思うことを教えてください

外国語学部中国語学科助教
藤田 由香利 (ふじた ゆかり)

杏林大学卒業、大連・北京の民間企業勤務。
杏林大学大学院国際協力研究科博士前期課程修了、現在後期課程に在籍

知らないうちに勉強しているという感じですね。

留学ではコミュニケーションの難しさも実感するでしょう。言葉を使い何を伝えるのか、伝えたいのかを追求しようと思ったら、帰国後また勉強することが増えそうですね。

ステップアップに繋がるわくわくポイントがたくさんある

——これから中国語をはじめると

藤田：ほとんどの1年生は「中国語ゼロ



看護師めざして勉強中

学生自身の努力と教員の支援体制で国家試験合格率 100%をめざす

保健学部看護学科看護学専攻 4年
木村 智佳 (きむら ちか)

埼玉県立春日部東高等学校出身

保健学部看護学科講師
吉野 純 (よしの じゅん)

日本赤十字看護大学大学院看護学研究科博士前期課程 修了。武蔵野赤十字病院、公立昭和病院で看護師として8年間勤務。東京医科歯科大学助手、聖母大学講師を経て、平成22年より現職



——看護師をめざすきっかけを教えてください

木村：小学校高学年の時にがんと闘う子どものドキュメンタリーTV番組を見て、看護師の仕事に魅かれました。

杏林大学を選んだ理由は、大学の付属病院で実習ができるからです。

また、看護師に加え保健師の資格も取得でき、国家試験の合格率が高いことも魅力でした。杏林大学には公募推薦で合格しました。

座学から実習へ

——看護学科ではどのようなことを学んでいますか？

木村：看護の勉強は基礎を身につけるため必修科目が多く、覚えることや課題がたくさんあります。

3年後期に14週間、4年前期に6週間の実習がありますが、臨床の場に出ることで今まで座学中心に学んできた基礎の理解が深まりました。

3年後期の実習は、付属病院の複数の診療科・病棟で行いました。小児病棟では、小学1年生の女の子を担当しました。ベッドでの安静が必要なケースで

したが、動けない状態の中で少しでも楽しめる遊びを考えたり、検査の不安を取り除くケアに努めました。しかし、不安を軽減させることは難しかったです。

9月にも小児科で総合実習があるので、その時の課題だと思っています。

——臨床実習について教えてください

吉野：臨床実習では、現場の臨床指導の看護師が学生に具体的な指導をします。教員は専門領域ごとに実習担当として、患者のケアプランなどを学生にアドバイスします。

木村：実習中、先生方にいろいろ相談にのっていただき、大変勉強になりました。

国家試験の合格がスタートライン

——国家試験受験や将来について

吉野：まずは来年2月の国家試験合格をめざして頑張ってもらいたいですね。

私は3年生まで木村さんの担任として進路相談などをしてきました。

実習の準備をしながら、今年の6月には都立小児総合医療センターから内定を

もらったことはすばらしいです。

木村さんは子どもが好きということですが、それだけでは小児看護は務まらないこともあります。

現場の辛さや難しさに突き当たることもあります。やりがいや楽しさもあるので、それを実感してほしいです。

子どもの心のケアができる看護師になりたい

木村：あともう少いで、子どもの頃からの夢がかないます。

将来は、入院している子どもの不安を軽減して、ご家族のケアもできる小児科の看護師になれるよう、国家試験対策をしっかり行い、試験合格をめざします。

2013年度 看護師国家試験合格率 100% 看護学科の支援体制
看護師国家試験対策委員会委員長／看護学科教授 **石川 福江**

国試対策委員会の教員9人を中心に、模擬試験や補講等のカリキュラムの検討などを行っています。

まず3年次に低学年模擬試験を受け、4年次4月のガイダンスで国試に対する意識づけをします。全国模試など計7回受験しますが、この結果を受けて、希望者には毎月卒業生による勉強会をしています。また、分野・専門領域ごとに特別講義を行います。本格的に試験対策に打ち込むのは4年次

の10月頃からです。12月には成績が伸び悩んでいる学生に、学部長、国試対策委員長、保護者による4者面談を実施するほか、各研究室の教員も個別にサポートを行います。

国試は落とそうとする試験ではなく、理解しておくべき問題が出題されます。自分は絶対受かると信じ、しっかり勉強して体調を整えて試験に臨んでください。

スケジュール	3年後期	4年 4月	6-7月	9月	11月	12-1月	2月
	低学年模擬試験	ガイダンス(年間スケジュール、卒業生体験談紹介)	全国模試スタート	臨床実習	総合実習(臨床実習)	総合実習発表	特別講義



挑戦することの大切さを実感

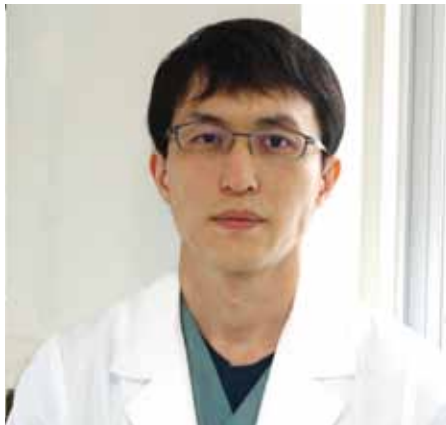
リサーチマインドの高揚を支援

医学部医学科 6年
高山 真梨子 (たかやま まりこ)

吉祥女子高等学校出身

医学部助教(心臓血管外科学)
稲葉 雄亮 (いなば ゆうすけ)

平成19年杏林大学医学部卒業



よい経験ができた学会発表

学生による発表奨励賞を受賞

5年次のBSL(病棟実習)を心臓血管外科で行っていた時に経験した症例について、日本胸部外科学会関東甲信越地方会で発表してみないかと心臓血管外科学の窪田博教授に声をかけて頂きました。よい経験、そしてよいチャンスだと思い、挑戦することにしました。

学会は今年3月、東京・都市センターホテルで行われ、「医学生による発表奨励賞」を受賞することができました。

私の発表テーマは、「左房後壁より起始した巨大粘液腫に対し腫瘍摘出術を施行した超高齢者の一例」で、杏林大学病院で行われた90代男性の腫瘍摘出手術の症例を報告しました。

発表資料の作成にあたり

学会発表は初めてだったので、資料の作成においては窪田教授と稲葉雄亮助教に指導いただきました。

慣れない英語の文献をあたる際は苦勞しましたが、先生方は読み方や考察について

丁寧にポイントを教えてくださいました。

目の前のチャンスを無駄にしない

学会を機に、何にでも積極的に取り組もうという思いが強くなりました。

また目の前のチャンスを掴むことが大切とわかりました。他の学生にも様々な機会を無駄にせずに挑んで欲しいと思います。

これからも新しいことに挑戦し、それらを将来に活かせるようがんばります。

論文作成に真摯に取り組む
夜遅くまで続いた論文指導

学会発表の準備は、私の仕事が一段落する20時ごろから夜遅くまで行いました。土・日には一日かけて発表スライドを作成したこともありました。

学会発表に必要な資料の作成や、発表の仕方には、決まりごとや準備すべきことがたくさんあります。ですから、学生

が学会発表を行うのは、大きな負担で、とても勇気のいることです。

はじめに高山さんに学会発表の話を持ちかけた窪田教授は高山さんについて、「多くの文献にあたり、見出した疫学的新知見にも考察で言及するなど、非常に熱心に、そして積極的に取り組んでいた」と評価しています。

また、海外でのクリニカルクラークシップに参加するなど、高山さんは物怖じしないタイプの性格だと感じました。

チャレンジを忘れずに、後輩を指導できる医師になってほしい

今回の学会発表は、大きな財産になるでしょう。

この経験をきっかけとして、医師になっても何事にもチャレンジする精神を忘れずにいてほしいです。

そして、後輩を指導する立場になった時に、しっかりと面倒を見て指導ができる上級医になってほしいと願っています。



「国際協力と小児医療に興味があり、今年5月、小児医療で有名な米国・シンシナティ大学病院でのクリニカルクラークシップに参加しました。米国の医学生士の積極的な姿勢に感化されるなど、将来に向けて見聞を広げる多くの体験ができました」と話す高山さん。お世話になったDr.Gaynierの自宅で(前列中央が高山さん)



本気で教師になりたいと思った 初任地での生徒との出会い

いま教員として

両親が教員だったので、幼いころから身近な職業でした。教職をめざして勉強し、実際に教育実習にも行きましたが、当時は「教員も良いかな」と思う程度でした。しかし、初任地の落合中学校で生徒とふれあうなかで、教師になりたいと本気で思うようになりました。

いま、社会科教諭として「丁寧にゆっくり」を心がけ、教科書に出てくる事柄を生徒の身近なものと結び付けて授業をしています。

それから、女子ソフトボール部の顧問として週6日活動しています。大会ひと月前の土・日は遠征を4、5回組んで20試合弱をこなしています。

大学での思い出

ゼミは日銀出身の湯本雅士先生のもとで経済学や経営学を学びました。少人数のゼミでしたが、学生同士でディベートや株式の模擬トレードをしたり、中身の濃い時間でした。ゼミの卒業論文は生徒に見せてよく自慢しています(笑)。

そして野球部の思い出。練習や仲間と過ごした時間すべてが今の仕事に通じて



栗原中女子ソフトボール部の生徒たちと。「指導者講習会に参加したり、本を読んだりして生徒と一緒に上手くなる努力をしています。最近ようやくソフトボールのピッチャーとしてそこそこの球を投げられるようになりました」と渡邊さん(後列左端)

“教員として指導者”の夢かなう

「出来るまでやる」がいまにつながる

総合政策学部 平成20年卒業 渡邊 頼史 (わたなべ よりふみ)

杏林大学卒業後、岡山県真庭市立落合中学校、岡山県笠岡市立白石中学校に臨時教員として勤務。2年半の臨時採用期間ののち、採用試験に合格。平成23年4月より広島県尾道市立栗原中学校勤務、現在に至る

いると思います。入学して数カ月、部員4人で寮生活をしていました。キャンパスまでの送り迎えや晩飯を作ってくれたのが萩本監督でした。4人で監督の誕生日会をしたこともありました。

私の結婚式で監督に主賓のスピーチをお願いしました。「ヨリはコントロールは悪かったが、良いお父さんになる。良い先生にもなる」みたいなことを言われました。酔っぱらっていて記憶が曖昧ですが、でもすごく応援してくれる、私にとっていつまでも東京のお父さんです。

経験してきたことを 生徒に伝えるのが自分の役割

「野球」に感謝して

中学1年で野球を始め、大学野球を引退するまでの11年間に会った監督や仲間、そして「野球」という競技に、私は育ててもらいました。この感謝の気持ちを、部活動の顧問として生かすことが私の役割だと思い、私が教えてもらったことを少しずつ生徒に伝えています。

初任地では野球部、2校目はバドミントン部、いまはソフトボール部の顧問として、スポーツをとおして、挨拶、感謝、礼儀などの大切さを伝えています。

杏林大学硬式野球部監督/ 学生支援課調査役

萩本 有一 (おぎもと ゆういち)

大分県出身。津久見高校から日本大学へ。昭和42年の春の選抜優勝メンバー。平成15年より杏林大学硬式野球部監督。平成23年春より東京新大学野球1部リーグ所属

部員、OB一人ひとりに 思い出がある

野球の縁を大事にしてほしい

私が杏林大学の監督になった最初の代が渡邊君たちでした。

出来るまでやる。1回言ってわからなければ、10回言う。当時から私の指導方針は変わりません。

性格がまじめな渡邊君が教師として授業や課外活動に力を入れている様子が目に浮かびます。成功や失敗の経験をふまえて、いま教えているんじゃないかな。

渡邊君のように野球に育てられたと感じてくれるのは、野球の縁を大事にしている私にとってとても嬉しいことです。

誠実な人であってほしい

私が部員たちに教えられることはあまりありませんが、一つ言えるのは、「嘘をつかない誠実な人であってほしい」ということです。一度嘘をつく、つじつまを合わせようとまた嘘をつく。それな



ら始めから嘘はつくな、ということです。

不祥事、事故、ケガなどで自分の明るい未来を自らの手で摘み取ることはするなと常に部員たちには言っています。

野球をしていれば人脈は広がります。それをちょっとしたことで途切れさせたくないと思うからです。

野球に正面から取り組んだ 経験を忘れずに

何があっても立ち向かえる強い気持ちで

ありがたいことに多くの人の世話になり、これまで全員就職を決めています。彼らには、今まで野球にかけていたことを、今度は仕事に置きかえて頑張ってもらいたい。野球では何度失敗やへまをしても、一本のヒットがそれを帳消しにしてくれることがある。仕事で、1つや2つ失敗しても挽回できるはずですよ。

野球に正面から取り組んできた経験を振り返れば、何があっても立ち向かえるでしょう。

杏林大学総合政策学部元教授 湯本雅士先生からのメッセージ

教員にとって、昔一緒に勉強した学生が立派な社会人になって活躍している姿を見ることほど嬉しいものはありません。

杏林大学での私のゼミは金融という特殊なテーマを扱っていたために、他のゼミに比べるとごく少人数でしたが、それだけに、一人ひとりに目が届くというメリットがありました。ゼミでとりわけ力を入れていたのは卒業論文で、文字通り一字一句、何度も何度も書き直しを命じて、ようやく完成にこぎつける、という状況でした。学生のほうはベソをかきながら、どうしてこんなことをさせるのだ、と思ったでしょうが、私には、いずれ社会に出て、絶対役立つ、という信念がありました。

渡邊君がそのことを実証してくださっているのは大変喜ばしいことです。引き続き元気で頑張ってください。



文部科学省 地(知)の拠点

実社会からの学びが本格スタート

本学が平成25年度文部科学省「地(知)の拠点整備事業」に採択されて1年。地域との交流や学びは以前から各学部で行われてきましたが、文科省の本事業に採択されたことによ

座学から街へ

今後の学習の動機づけに(医学部)

医学部では、平成20年度から入学時オリエンテーションの一環として、自分たちで考えた課題にグループで調査を行い発表する「グループプロジェクト」を実施してきました。今年度からは、このプロジェクトの発展形として「医療科学A・地域と大学」が1年次の必修科目になりました。



医学部衛生学公衆衛生学苅田香苗准教授による「フィールドワークの基礎」の講義(5月14日)。学生たちは学外で調査活動を行う際のポイントについて学んだ

「医療科学A・地域と大学」

4・5月は、厚生労働省の医系技官や三鷹市の健康福祉部門の担当者を講師に迎え、日本および三鷹市の医療・福祉政策の現状を学びました。それに続いて三鷹市内で実施するフィールドワークの方法、杏林大学病院と周辺の医療・福祉施設との連携について理解を深めました。

フィールドワークで地域を知る

学生は7、8人ずつグループを組み、各指導教員のもと、三鷹市の「救急医療の現状」「障がい者支援」「高齢者の受療行動」「老人介護」などの課題を設定し、資料の収集や訪問取材を始めました。

各グループは9月下旬までに中間報告をまとめ、11月15日に開催する杏林医学会のセッション「地域と大学 グループ活動報告」(仮称)で発表を行います。

科目責任者の赤木美智男教授は「全員が必ずしも地域医療に携わるわけではあ

り、地域に関する学習を4学部それぞれ必修科目「地域と大学」として体系的に整備し、今年4月に実社会からの学びが本格的にスタートしました。

りません。しかし、医学の勉強を始めるにあたり医療や福祉を受ける人たち、医師とともに医療・福祉を提供する人たちが、医師に何を求めているかを知ることが今後の学習に対する強い動機づけになります」と話しています。

前期授業：自治体から講師を招き 地域の医療保健福祉を学ぶ(保健学部)

8学科ではそれぞれ、三鷹市、八王子市、羽村市で保健・医療・福祉の担当者を講師に迎え講義を受けました。

各自治体が行っている、保健・医療行政の現状や課題について学ぶとともに、医療施策や将来計画などについて理解を深めました。

文系学部は9月に開講

総合政策学部と外国語学部では1年次必修の共通科目「地域と大学」がこの9月から開講します。

来年1月まで15回にわたり、三鷹・

八王子・羽村の3市における大学の役割や地域課題について学ぶ講義とグループワークを行います。

「生きがいつくりコーディネーター」 養成講座 始まる

社会人を対象に、都市型高齢社会の中で保健分野で地域に貢献する人材の育成を目的とした「生きがいつくりコーディネーター」養成講座がこの9月から始まります。

杏林CCRC(大学と地域との包括的な連携)事業の一つとして行うもので、開講されるのは「健康教育概論」「健康科学Ⅱ」「ホスピタリティ実習-2」「高齢保健学」の4科目。来年3月までそれぞれ15回の授業が行われます。※詳しくは杏林大学ホームページをご覧ください



杏林見聞録 ③

このまこと

保健学部 河野 眞准教授



略歴：東京都立大学（現首都大学東京）人文学部卒業、国立療養所東京病院附属リハビリテーション学院卒業。作業療法士として青溪会駒木野病院勤務ののち、青年海外協力隊としてマラウイ共和国に派遣。国際協力を学ぶため国際医療福祉大学大学院修士課程修了、同博士課程単位取得退学。2010年よりタジキスタンで障害者リハビリ支援を開始。東日本大震災以降定期的に被災地を訪れ、リハビリ支援活動を続ける。2011年杏林大学着任、現在に至る

JICA 青年海外協力隊 マラウイ隊員として海外派遣

病院でOTとして2年間臨床経験を積んだ後、2000年から2年間、JICAの青年海外協力隊としてマラウイに派遣されました。

現地では発達障害児へのリハビリ指導を行いました。その後、国際協力について研究するため、国際医療福祉大学大学院に進学しました。この間、カンボジアで精神障害者支援活動に関わりました

大学新聞では杏林の知的財産である教員の研究活動、優れた社会貢献やユニークな取り組みなどを「杏林見聞録」のコーナーで紹介しています。
第3回は、タジキスタン共和国での障害者支援、東日本大震災後の福島県での被災地支援を続ける保健学部作業療法学科の河野眞准教授にインタビューしました。
河野准教授は、大学在学中に東南アジアや南米に何度も出かけ、様々な人と出会ううちに、対人援助に興味を持ちました。大学卒業後、社会人経験をしたのち、国立療養所東京病院附属リハビリテーション学院で作業療法士（OT）の資格を取得。OTの専門知識、技能を活かし、海外でそして国内で精力的に支援活動に取り組んでいます。

が、海外での障害者支援活動のベースはやはり最初のJICAのマラウイ派遣でのキャリアだと思います。

「難民を助ける会」を通じて タジキスタンで障害者支援

2008年に国際NGO「ワールド・ビジョン・ジャパン」のもと、ウズベキスタンで2年半ほどリハビリ支援を行いました。この時、国際NGO「難民を助ける会」から声がかかり、今でも年2～3回活動しているタジキスタンでの障害者支援が始まったのです。

タジキスタンでの活動は国立障害者リハビリテーション病院の職員への技術指導や、障害者家庭を訪問してリハビリに関する助言を行うことです。

障害児を持つ母親のなかには、私たちの訪問を機にリハビリ技術を磨き、自分でNGOを立ち上げ、通所施設を開所するなどモチベーションの高い方もいました。この方は、小学校長と交渉して、障害児たちを普通学級で学べるようにしたり、教育省に働きかけて同様の施設を増やす努力をしています。我々も応援プロジェクトを立ち上げ、その活動を支援しています。

タジキスタンは、旧ソ連諸国の中の最貧国の一つです。リハビリテーション・障害者支援分野の整備はまだ不十分ですが、今後も微力ながら現地障害者の社会参加推進に協力したいと思います。

「リハネット」のメンバーとして被災地支援

東日本大震災後、リハビリテーション分野の協力隊経験者で組織される「JOCVリハビリテーションネットワーク」（通称リハネット）のメンバーとして、福島県二本松市の仮設住宅を定期的に訪問しています。

月2回、2カ所の仮設住宅で入居者へのマッサージ提供や健康体操教室を実施しています。また、刺繍や編み物など仮設住宅の住民が特技を生かして気軽に参加できる活動や環境づくりなどヒューマンコミュニケーションを第一とした支援活動に取り組んでいます。

訪問回数も通算で60回ほどになりました。先日は、脊椎を圧迫骨折した高齢の方が「コルセットが合わないのでみてほしい」と訪ねて来られたり、「(自分たちが作った)手工芸品をネット販売する方法を教えてください」と相談にいられました。



(左) タジキスタンでの活動風景。脳性まひの子どもの家族にリハビリテーションについてアドバイス (右) 食事指導の方法を現地の医療専門職や保護者に伝える

私たち協力隊経験者の特長は、必要と思えば本業の枠を飛び出して活動するフットワークの軽さだと思います。この特長を活かして今後も被災地の仮設住宅住民の力になりたいと思っています。

ボランティア活動に大切なこと

ボランティア活動に参加してみようと考えている学生は多いと思います。その際自分の枠を決めないで、自分がやろうと思ったこと、関心のあることにまず挑戦してみてください。

始めから高い目標を持っていても大抵の場合些細なところでつまずいたりするものです。

ボランティアに関しては、まず参加してみることで。そして興味が持てたならば、次はそれを継続していくことです。

地道な活動を続けていけば、新たな展開が見えてきます。

まずは勇気を出して第一歩を踏み出してみてください。

海外留学者急増 実績あがるグローバル教育

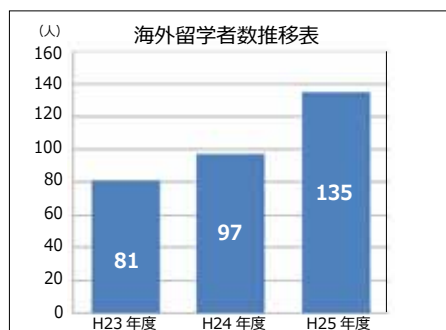
外国語学部を中心とした本学のグローバル教育事業が、文部科学省のスーパーグローバル大学等事業「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援」（旧グローバル人材育成推進事業）に採択されて2年。今年6月、この間の実績をまとめた中間評価調書を作成し日本学術振興会に提出しました。

跡見裕学長やポール・スノードン副学長、坂本ロビン外国語学部長をはじめ、全学あげての推進体制で海外留学者数や海外協定校数などで当初の目標を上回る実績をあげています。

25年度海外留学者数 39%増の135人

平成25年度に海外留学・研修に参加した学生は、外国語学部の96人をはじめ、総合政策学部16人、保健学部11人、それに海外で臨床参加型実習を受けた医学部12人の計135人（文科省の調査対象外の2週間以内の海外研修を含めると150人）で、前年度の97人から39%増えました（下表）。

これは当初の25年度事業計画の目標より8人多くなっています。このうち、



海外協定校へ派遣されたのは56人で前年度27人の2倍を超えました。

留学期間で分けると、3カ月以上1年未満が72人、3カ月未満が63人でした。

また、派遣の国・地域別ではアメリカ40人、次いでイギリス29人、カナダ22人、中国19人、ニュージーランド9人、オーストラリア8人、他となっており、日中間の冷え込んだ政治状況を反映して中国への留学者数は協定校が多い割に伸びませんでした。

海外の協定校 14の国・地域で42校に

本学では、平成28年度までに海外協定校を50校に拡大することを目標としています。

25年度は6組の教職員が既協定校と交流を深めるとともに、新たに協定未締結の15の大学と交渉を行いました。その結果、イギリスのチチェスターカレッ



7月19日に行われた平成26年度第1回留学・研修帰国者報告会。43人が留学先での授業や生活の様子を英語もしくは中国語で紹介しました。中国外交部の梁哲明氏など外部評価委員からの質問にも堂々と対応しました

ジとレスター大学、台湾の国立高雄餐旅大学、アイルランドのリムリック大学、オーストラリアのアデレード大学の5校と協定が成立しました。

26年度は8月までに3校と協定を結びました。これにより海外の学術交流協定校は14の国と地域の42大学・機関となりました。目標の50校は28年度を待たず達成できる見通しです。

語学の学修成果 着実に向上

例えば外国語学部英語学科の場合、卒業時にはTOEIC®で800点を取るなど卒業時の外国語力スタンダード(*)を設定しています。

文科省支援の本事業がスタートして実質1年半しか経っていないこともあり、25年度の卒業生で設定条件をクリアしたのは目標の10人に対し半分の5人にとどまりました。

しかし、26年度卒業予定者（本事業

開始時2年次）は平成26年3月時点で、HSK／中国語検定2級達成者は8人、TOEIC®800点台は6人、900点台1人と、既に26年度目標を達成しており、今後目標に到達する学生は30人程度まで増える見込みです。これらの成果について、7月22日に開かれた第三者評価委員会（委員：横河電機株式会社 内田勲最高顧問、テンブル大学 ブルース・ストロナク学長、東京大学大学院 木村英樹教授）ではグローバル人材としての成長過程を可視化するポートフォリオや学生同士が学びあうピア・チュータリングについて助言をいただき、本学では今後、これらの指摘事項に積極的に取り組んでいきます。

*「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援」事業の成果を可視化するため、外国語学部全学科で語学検定試験の受験を積極的に推奨している。【卒業時の外国語力スタンダード】英語学科・観光交流文化学科：TOEIC®800点、TOEFLiBT80点、IELTS6点、中国語検定4級、HSK3級他。中国語学科：中国語検定2級、HSK5級、TOEIC®500点他

卒業生リレー

人が好き

リスナーとつながる時間を大切にしたい

埼玉県を中心に関東を放送対象地域としているFMラジオ放送局NACK5(本社:埼玉県さいたま市)。同局で毎週月～木曜日の13:00～16:55に生放送されている“GOGOMONZ”(ゴゴモンズ)のパーソナリティを務めています。

— 仕事の内容を教えてください

3年前に始まった“GOGOMONZ”で当初から三遊亭鬼丸さんとパーソナリティを務めています。

学生、サラリーマン、主婦や年配の方まで幅広い層のリスナーの投稿や身近で楽しい話題を紹介しています。スタジオを出て、関東各地の色々な所に取材に行くこともあります。先日、「かおりん!いつも聞いてるよ」と声をかけられ、本当に嬉しかったです。

何よりラジオの魅力は、お便りやメールでリスナーとやり取りができる「つながる時間」があること。ここにやりがいを感じ、日々マイクの向こう側に語りかけています。

— なぜラジオの仕事を選んだのでしょうか

試験勉強の合間によくラジオを聞きました。沈みがちな気持ちを励ます曲やメッセージを送るパーソナリティに何度も励まされました。今思うと、この仕事に憧れるようになったきっかけかもしれません。

高校2年の時にスカウトされ、芸能事務所に所属しましたが、本格的に仕事を始めたのは大学1年からでした。

最初のラジオの仕事は、女子大生アシスタントとして出演した深夜のバラエティー番組でした。授業後に終電で現場に入り、翌朝帰るハードな仕事でしたが、リスナーと直接コミュニ

よこた
横田 かおり

(保健学部 2003年卒)



ソナリティとして活躍しているのが保健学部を卒業した横田かおりさんです。在学中の思い出や、今のお仕事に至るまで、そして在学生に向けたメッセージなどを伺いました。

収録風景。リスナーからのメッセージが原動力となっている、と話す横田さん

ケーションがとれるラジオの仕事面白いと思いはじめました。

— 学生生活の思い出を教えてください

心理学やカウンセリングに関心があったので保健学部保健学科(現健康福祉学科)での学びはとても興味深かったです。しかし、勉強と仕事の両立は簡単ではありませんでした。ノートを貸してくれた友人、進級や卒業にあたりお世話になった多くの先生方など、色々な人に助けられました。

4年次には、とても人気のある精神保健学の田島治先生の研究室に入ることができました。

旅行などイベントが多いサークルに入り、学生生活を満喫しました。その仲間とは、今でも時々会っています。

大学で学んだ、心理学やコミュニケーションスキル、セルフプロデュース力などは「人に何かを伝える」ことや、「誰かと会話する中でその人の魅力を引き出す」こと、そして「自分自身を知ってもらう」という今の仕事をする際に大変役立っています。

— 今の仕事に就くまでに苦労はありましたか

卒業後は仕事の機会に恵まれませんでした。ラジオに限らず様々なオーディションを受けましたが、落ちてばかり。やっともらえたラジオの仕事も商品のコマーシャルや相づちを打つ程度の役割でした。

そんな時期が7年ほど続き、この間、同期は次々と転職や結婚で辞めていきました。不安でしたが、ラジオの仕事への夢が私を支えていました。

3年前に新番組の話が来て、トントン拍子に決まり、番組を担当するようになりました。ようやく胸を張って「ラジオ番組をやっています。これが私の仕事です」と言えるようになりました。

失敗談は数えきれません。放送中に泣いてしまったり、ゲストを不快にさせてしまい、挽回しようとトークを盛り上げるものの逆効果で場の雰囲気が悪化してしまったり、それを引きずってまた失敗したり…考えると落ちこんでしまっていますが、そうした体験の全てが今の私につながっています。

— 後輩の杏林生へメッセージをお願いします

先生方は専門分野や色々な事柄に精通していて、話を聞くだけでもとても勉強になります。学生の皆さんは、ぜひ積極的に先生方と接していろいろなことを吸収してほしいと思います。

また、積極的に行動してほしいと思います。無茶や失敗をしてしまっても、そこから学ぶことは多いはず。自分が関心を持ってやったことはその後、社会に出てから何らかの形でつながり、力になることは私自身実感していますから。

学園創立50周年へ 8

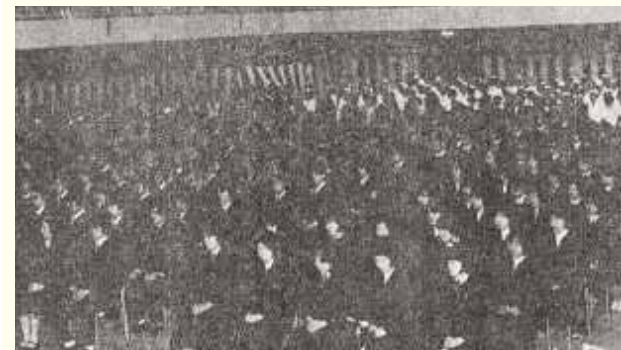
杏林年代記

杏林大学保健学部誕生 - 1979年の杏林学園

長年の構想が具現化・保健学部開設

1966年に学園の歴史とともにスタートした杏林学園短期大学(1973年に杏林短期大学に名称変更)は、1979年それまでの衛生技術学科を廃止(募集停止)し、臨床検査技術学科、保健学科の2学科を擁する保健学部として、八王子キャンパスで新たな歩みをはじめました。

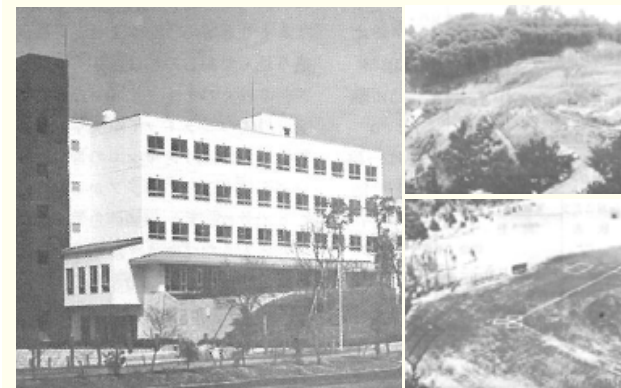
学園創立者である松田進勇前理事長は、既に1970年の医学部設立以前から、医学部のほか、コメディカル、予防医学、その他関連部門を統合して現代治療及び予防医学の一大殿堂にしようという構想を持っており、それを具現化したものでした。



1979年4月10日、保健学部開設式・杏林大学合同入学式を挙げる。この年、医学部104人、保健学部109人(臨床検査技術学科56人、保健学科53人)、看護専門学校77人のあわせて290人が入学

初代学部長には、当時の短大学科長 勝目卓朗教授が就任。カリキュラムは真・善・美の建学の精神に則り、何よりも生命尊重の立場を第一義とし、正しい生命観、人間観を打ち立てる一般教育、総合講座、さらにライフサイエンス、物理学、電子工学等の講座が準備されました。

開設まもなくは医学部が教養課程の講義で使用していた教室を使っていたが、その後1980年にキャンパスのシンボルの一つとなっている時計塔(研究棟、現I棟)が、1994年には看護学科開設に伴い新校舎(K棟)が竣工するなど、ハード面でも大きく発展を遂げました。



左:1980年に竣工した研究棟。同時期運動場の改修工事も行われ、野球場の両翼・センターともに延長された。右上:改修前の運動場、右下:1981年5月改修後の運動場

本学で最も多い学生数、卒業生は6,000人を超える

社会におけるコメディカルの重要性を鑑み、現在保健学部は臨床検査技術学科、健康福祉学科、看護学科、臨床工学科、救急救命学科、理学療法学科、作業療法学科、診療放射線技術学科の8学科を擁する、本学で最も学生数の多い学部になりました。

6千人を超える卒業生は、現在医療機関や学校、あるいは企業等社会の様々な舞台上で活躍しています。

K棟:手前の棟は5階建てで、講義室、実習室、研究室、事務室等がある。中庭を挟んで奥にある棟は8階建てで、会議室、大学院セミナー室、研究室等を備える



※1979年の出来事

- ▼大学共通一次試験(現在のセンター試験)が初めて実施される。
- ▼携帯型ヘッドホンステレオ「ウォークマン」(ソニー)第1号発売。
- ▼広島東洋カープ球団創設30年目で初の日本一(日本シリーズ第7戦で「江夏の21球」と呼ばれる名場面)。
- ▼「3年B組金八先生」(TBS)、「機動戦士ガンダム」(名古屋テレビ)放映開始 など

在学生リレー エンジョイ☆杏林 Life

多くの出会いと経験が私の力に

いちかわ
市川 アリサ

(外国語学部 英語学科 4年)

羽村三中での授業アシスタントの様子。「1年生には英語の面白さを、上級生には英語の奥深さも伝えたい」と話す市川さん

子市立第七中学校で教育実習を行いました。そもそも教職課程を選択したのは、英語が多くの場面で必要になってくる社会では、英語を教えることができる人材が必要とされると思ったからです。

英語が活かせるビジネス関係の仕事にも興味がありますが、実習を終えて子どもたちと向き合う教師の仕事にも興味が出てきました。

実習当初は前向きな性格の私も、「生徒は理解できただろうか」と不安で仕方ありませんでした。実習先の先生や他の学校で実習中の友人、ゼミの八木橋宏勇先生などいつでも相談できる人

がいることは心強かったですし、生徒に助けられ、先生方の指導に感謝する毎日でした。一方で、私なりに自分の力を信じてやり抜く強い気持ちも忘れませんでした。

今年2月に行われた羽村市駅伝大会にボランティアスタッフとして参加した時、思いがけず羽村第三中学校の渕上校長先生から声をかけていただき、この7月から毎週1回、同校で英語の授業のアシスタントをしています。また、同校には日本語に不自由している外国人家庭があるため、生活相談ボランティアとして先生、生徒、親の間に入って通訳をしています。難しい役割ですが、文化の違いや言葉の壁は私も経験したので、少しでも役に立てればと思っています。

在学中のたくさんの経験が自分を成長させていると感じています。



八木橋ゼミの仲間たちと(前列左が市川さん)



私は母親の祖国、フィリピンから8年前日本にきました。今でもマイペースな私ですが、いろいろな人とのかかわりの中で日本の習慣や自分の立ち位置がわかるようになりました。

大学に入学してしばらくは、講義ノートの作成や先生からの連絡の確認など、当たり前のように、友達を頼っていました。それが、友人との考え方の行き違いで起こったケンカを境に、少しずつ自分で考えること、解決すること、相手を思いやる気持ちの大切さに気がきました。今は、その友人に感謝しています。

今年の5月下旬から3週間、八王

学部・大学院トピックス

医学部

海外病院でのクリニカルクラークシップ(診療参加型臨床実習) 参加報告会



来年海外での病院実習を希望する学生たちは、先輩の報告に皆熱心に耳を傾けていました

医学部生はカリキュラムの一環として、6年生の4～5月の8週間、クリニカルクラークシップを行います。

クリニカルクラークシップは、医学生が診療チームの一員として、指導医師のもとに許容される一定範囲の医療行為を行い、

平成26年度海外クリニカルクラークシップ実績

国	都市	施設名	人数
アメリカ	シンシナティ	College of Medicine, University of Cincinnati	3
	エバンストン	North Shore University Health System	12
	ニューヨーク	Stony Brook University Medical Center	2
	インディアナポリス	Franciscan St. Francis Health	1
フランス	クレルモン=フェラン	L' Université d' Auvergne, Facultes de medecine, CHU de Clermont-Ferrand	4
オーストラリア	シドニー	Sydney Medical School - Northern	3
オーストリア	ウィーン	Medical University of Vienna	1

海外クリニカルクラークシップに参加して 医学部6年 川崎恭兵

私は、5月にクリニカルクラークシップでNY州立大学Stony Brook校に1カ月留学しました。実習は救急科で2週間、総合内科で2週間行いました。

米国では学生の義務が多く、毎朝7時から新規入院患者の問診と診察をして、上級医にプレゼンテーションします。

日本と違い、学生の意見が採用されたり、患者さんも学生を一人の医者として見なします。これは同時に発言一つひと

将来医師となるために必要な知識、技能、態度を修得することを目的に行うものです。

本学ではグローバル教育を推進しており、医学部でも学生が多様な環境にふれることができるよう、海外でクリニカルクラークシップを行うための受け入れ施設の拡充に努めています。今年度は昨年度のほぼ倍にあたる25人(うち1人は2施設)が海外の病院での実習に参加しました。

これらの学生による報告会が6月27日と30日に行われました。学生は実習内容や留学生活の様子、日米の医学教育の違いなど、各々が得た体験を、写真を交えながら伝えました。



総合内科のBraverman医師と

つながりを持つことになるのです。

毎日忙しかったのですが、よい経験ができたと自信を持って言えます。お世話になった多くの方々に感謝の気持ちでいっぱいです。

基礎研究交換留学・病理学教室にカナダ人学生が短期留学



研究発表会でプレゼンテーションを行う Antoine さん

教室あげて留学生を指導

カナダのシャープルック大学医学部2年生の Antoine Corbeil さんが、7月1日から1カ月間にわたり病理学教室で研修を受けました。Antoine さんは IFMSA (国際医学生連盟) の基礎研究交換留学として来校しました。

病理学教室ではスタッフから、細胞培

養や免疫染色、標本作製法など病理学の研究に必要な技術を学びました。

最終日の研究発表会では、指導教員を前に、自らが取り組んだ「乳癌における KLF5 の免疫染色による発癌解析」をプレゼンテーションしました。質疑応答まで行い、留学成果を見事に披露しました。

将来の病理医、病理研究者を育てるために

病理学教室教授 菅間 博

国際交流活動を支援

当教室は国際交流活動の支援の一環として、IFMSA の基礎研究交換留学に協力しています。昨年は医学部5年の金球仙さんが、病理学の修練後、チェコのカレル大学に留学しました。逆に Antoine さんのような世界中の医学生が、毎年、当教室で病理学の研究指導を受けています。

病理学研究の課外指導

臨床研修が必修化されて以来、基礎医学を専攻する医師が激減しました。病理学も例外ではなく、全国的に深刻です。また、医学部6年間の教育のなかで、基礎医学の研究に接する機会が減っています。

基礎医学研究の重要性とおもしろさを理解してもらうこと、そして将来の病理医、病理学研究者を育てることを目的に、病理学研究の課外指導を行っています。

研究成果は、学会で発表し、論文にすることが大切です。できれば英語で発表することが望まれます。



左から菅間教授、Antoine さん、仲矢丈雄助教、博士研究員の石井順さん

保健学部

理学療法学科の教員と学生 高齢者を対象に「健幸教室」開催



セラバンド体操の様子。多くの学生が参加することで、参加者が立位での運動を安全に実践することができました。参加者からは「学生さんがやさしく接してくれてパワーをもらいました」との声も聞かれました

始まりは老人クラブの要望

理学療法学科の榎本雪絵准教授と同学科の学生は地域包括支援センター子安と協同で、八王子市平岡町在住の高齢者(平岡町老友クラブ会員)約20人を対象に、2013年7月から2014年6月までの1年間、健康教室ならぬ「健幸教室」を開催しました。

「健幸教室」の開催は、平岡町老友クラブから、地域包括支援センター子安に「高齢者に適した健康増進のための運動

を教えてほしい」という要望が寄せられ、同センターのセンター長が多摩地区で定期的に開かれる会議で知り合った、榎本准教授に相談したことに始まります。

好評の体操と健康ミニ講座

当初は榎本准教授が一人で指導していましたが、2013年11月より理学療法学科の3年生10～15人がボランティアとして参加するようになりました。

「健幸教室」では、脈拍や血圧についてなどの健康増進に関する「ミニ講座」

とゴム製のセラバンドを用いた体操を中心とした運動を行い、体操をする際は、学生がほぼマンツーマンで指導にあたりました。

地域に元気をもたらす学生の力

本学では、学部の学びを生かして、様々な形で教職員が地域と交流を進めています。

今回の取り組みでは、参加者の運動継続や運動効果の向上が期待できるとともに、学生にとっては地域の方と直接向き合うことができる、まさに地域とのつながり作りのベースとなる活動になりました。



榎本准教授(左)と「健幸教室」に参加した学生たち。学生からは「老友クラブの皆さんから元気をもらいました」「実践に近い現場を体験することができ、臨床実習が楽しみになりました」などの感想が聞かれました

井の頭キャンパス 建設募金のお願い



杏林学園は学園創立50周年を迎える2016年4月、八王子キャンパスを武蔵野の地に移して「井の頭キャンパス」を開校します。

建設工事は6月5日より始まりました。杏林学園は、この移転によりさらなる発展を期するとともに、新しい環境の下で教育・研究・診療を通じ今後も社会が必要とする人材の育成に努めてまいります。

井の頭キャンパス建設にご理解を賜り、皆様のご賛同、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

●募金概要	
募金目標	40億円
募集期間	2014年6月1日 ～2017年3月31日
募金対象	個人：1口2万円
及び口数	法人：1口50万円 (なるべく2口以上お願いします)

杏林学園創立50周年記念事業 井の頭キャンパス建設募金事務局

総合政策学部

羽村市×杏林大学連携
商店街活性化支援事業

羽村東口商店会ヒアリングプロジェクト



パン屋「リーベン・ブロード」(左) スペイン料理店「バル&レストラン エルムンド」(右) でのヒアリング調査。学生たちは「地元やお客さんへの温かい気持ちが伝わった」「自分たちができることを見つけたい」と話していました



ヒアリング調査で商店会の魅力を探る

羽村市東口商店会の活性化をめざし、学生たちが店主へのヒアリング調査をとおして地域の魅力を探る「羽村東口商店会ヒアリングプロジェクト～元気の源を探そう!～」が、8月1日、2日に行われました。

これは本学がすすめている「地(知)の拠点整備事業」の社会貢献活動として、羽村市と同市産業環境部産業課、企画総務部企画政策課と連携して行っているものです。

本プロジェクトには、総合政策学部で経済学や行政学、政治学を学ぶ学生と外国語学部でイベントマネジメントを学ぶ学生26人が参加しました。

学生は6チームに分かれて、東口エリアの商店20軒を分担して訪問し、各店舗の歴史や現状、課題や店主がとらえる商店街の魅力などをヒアリングしました。これをもとに各チームは協力してくれた店主、羽村市職員、本学の教員とともに商店会活性化プランを立てました。

学生視点のアイデアが続々

最終日の発表では、地元出身の音楽バンドにちなんだ「LIFriends CAFE」、商店会を積極的に利用してもらうための「羽村 Take Out まいまいポイントラリー」、多くの人に地元が一番を知ってもらう「はむギネス」、毎週決まった曜日に開催するお楽しみイベント「まいま市」などのアイデアが出されました。

このあと10月に、学生たちは2日間にわたるヒアリング調査、ワークショップを「魅力ある商店会づくり」としてまとめ、店主、羽村市、地域の住民に向けてプレゼンテーションを行います。



杏林・羽村 commons で行われたワークショップ



学生パワーを地域に活かすプロジェクト

総合政策学部准教授 木暮 健太郎

今回のプロジェクトでは学生がもつパワーや可能性に圧倒されました。

商店へのヒアリング調査から具体的なプラン作成に至る2日間のプロセスで、学生たちは授業では学べない貴重な経験ができたと思います。

また総合政策学部と外国語学部の学生が共にヒアリング調査を実施したことで、学生同士の交流が生まれ、新たな刺激となりました。

今後も、「まちづくり」を一つの題材にしながら、学部を超えて学生と教員が知識・経験を共有できるようになればと思っています。

外国語学部

英語に浸る夏期プログラム 英語合宿



グループワークではテキサス A & M 大学の学生を含むネイティブリーダー達と活発に意見交換をしながらプロジェクトを進めました(左)。屋外では「Thinking Cross-Culturally」を通して、文化の違いを体験しました(右)



ネイティブと英語漬けの3日間

聴解力や会話力など実践的な英語力を養うことを目的に行われる夏休みの英語合宿は、「English Immersion Weekend」と題し、授業から学生間の会話まで全て英語だけで行われました。

9回目となる今年は8月1日から3日までの3日間、高尾の森わくわくビレッジ(八王子市川町)で開催され、学生59人(1年生48人、2年生11人)が参加しました。

プログラムは、吉良アマンダ特任講師、エリック・トラウトマン特任講師、ジョナサン・マッカートニー特任講師の3人のネイティブ教員が中心となり運営されました。

また、今年は7月から杏林大学で英語指導のインターンシップを行ったテキサスA&M大学の学生2人も、グループリーダーとして活躍しました。

学生達は5グループに分かれ、各ネイティブのグループリーダーの下で、地元を紹介するプレゼンテーション、異文化を体験するアクティビティ、創作シナリオによる10分間のショーなどを行ったほか、読解や筆記力強化のために毎晩課される宿題に取り組みました。

授業での学びをアウトプット

参加した2年生の遠藤彰彦さんは、「普段の生活ではできないほど、英語を使うことができ、授業で学んだことをアウトプットする絶好の機会となりました。」

9月から3カ月間、オックスフォードへ留学に行きますが、合宿で学んだことを大切に、無我夢中で頑張ります」と意欲を漲らせていました。

文化と言語の側面から英語を学ぶ

英語合宿担当・特任講師 吉良アマンダ

合宿では、異なる文化背景を持つ人とのコミュニケーションの取り方を学ぶアクティビティも取り入れられました。

「Thinking Cross-Culturally」、「Scavenger Hunt」などを通して、学生は異文化を受け入れる足がかりを得ることができたようです。また、3日間集中的にネイティブと話す機会を得て、苦戦しながらも徐々に発言に慣れると共に、学生同士で刺激し合っていました。



グループワークで指導する吉良アマンダ先生(中央)

Club Circle 八王子・三鷹両キャンパスではクラブ、サークルとして80団体が活動しています。今回は、バスケットボール部と杏林書道会を紹介します。

●バスケットボール部(三鷹) 前進をめざして日々練習!



バスケットボール部は、医学部、保健学部、看護専門学校の学生が合同で活動しています。本年度は23人の新入部員を迎え男子部23人、女子部32人の計55人が所属しており、三鷹キャンパスでも大規模な部活の一つです。

私自身入部する前はバスケの経験はありませんでしたが、経験者、初心者問わず和気あいあいと活動しています。

平日は三鷹キャンパスの松田記念館で練習を、週末は他大学との練習試合を積極的に行っています。

年間の試合は、関東医歯薬バスケットボール春大会・秋大会と東日本医科学学生

総合体育大会(東医体)です。

夏の東医体期間中は朝から晩までバスケット部の仲間と過ごす貴重な時間です。今年は8月10日から14日まで、さいたま市で開催されました。女子は悔しい結果となりましたが、男子はベスト8という成績を残しました。

10月の関東医歯薬秋大会では、男子はベスト4を、女子は力を出し切り良い結果を残すことを目標にしています。

杏林大学有数の伝統ある部活として、その名に恥じぬよう日々精進し、練習に励みたいと思います。

(バスケットボール部主将 医学部4年 木村友哉)

●杏林書道会

納得のいく作品をめざして一意奮闘!

杏林書道会は外国語学部と保健学部の学生12人が所属し、週1回八王子キャンパスの教室で活動しています。練習では、書家の寺内芳泉先生の指導を受け、楷書・行書・草書・隸書・篆(てん)書など様々な書体について学び、杏園祭や杏会総会などに出品する作品の制作に打ち込んでいます。作品制作の前は、普段の練習に加えて、1週間ほどかけて集中練習を行います。

昨年からは技法や書風により磨きをかけるため、台東区立書道博物館や国立博物館へ展示作品の鑑賞に行くなど、活動の幅を広げています。今年の6月には、有楽町朝日ギャラリーで開催された第28回淡江社翰墨展(かんぼくてん)に部員5人が出品する機会に恵まれました。

今後も、学内外での展示会に積極的に参加したいと思っています。書道という堅いイメージがあると思いますが、字を綺麗に書きたい、集中力を養いたい、自分自身と向き合いたい等と思っている



納得いく作品に仕上げするため、多い時は1日に30枚以上書くこともある

方にはオススメです!何度も練習して、納得のいく作品が書けた時の達成感や自信にも繋がり、もっと書きたいという思いがこみあげてきます。

中国人留学生が多く所属し、教室では日本語と中国語が飛び交う国際交流の場にもなっているので、異文化を体験したい方も大歓迎です。

(杏林書道会部長 外国語学部4年 田中亜実)

キャンパス情報⑩

八王子保健センター

インタビューに答えたのは…

- 保健センター長 四倉 正之 保健学部教授
- 保健師 二見 恵梨香さん
- 保健師 柳川 奈巳さん
- 事務 中川 美智子さん



健康診断など大きな行事が終了すると達成感を感じます。前列右から四倉センター長、中川さん、後列右から保健師の柳川さん、二見さん

—保健センターの仕事を教えてください

昨年度は延べ720人がセンターを利用しました。部活動中に骨折などをして救急車を呼んだこともあります。ほとんどは症状の軽いものです。

自然に囲まれたキャンパスのため、マムシや蜂に刺された際の応急薬などは揃えています。以前、アライグマに噛まれた学生がいましたが、かわいくとも野生動物には十分注意するよう指導しました。

不安げに来室した学生がほっとしたり元気になった様子を見たり、「お世話になりました」「ありがとうございました」という言葉を聞くと私たちも安心します。

—様々なイベントや活動をしていますね

アルコールに関する啓発活動や、熱中症対策講座、屋台が多く出る杏園祭前は食中毒予防講義を行っています。

部活動代表者対象の「リーダーズキャンプ」では、事故や病気を未然に防ぐことや初期対応の大切さを伝えています。

禁煙・喫煙マナーキャンペーンは毎年

実施しています。期間中に実施するアンケートからは、喫煙者の約4割は禁煙したいと思っているものの、行動に移せない実態がわかりました。

学生には、実感がわかないかもしれませんが、将来のために真剣に考えてほしいですね。

—学生の様子からわかることはありますか

健康診断の結果、BMIが極端に低いなど健康状態が気になる学生は注意して観察します。必要に応じて栄養指導などを行っています。中には「絶対食べない」「私は大丈夫」と言う頑固な学生もいます。

一方、数値では問題がなくても、精神的な要因をかかえる学生もいます。そういう学生は、学生相談室と連携してきめ細かい対応をしています。

身近に頼れる場所が少ない留学生は、症状がひどくなる前にここに来ます。

学生の皆さんが安全で楽しく学生生活を送ることができるよう、サポートしますので、調子がおかしい、と思ったら保健センターに来てくださいね。

数字で見る杏林大学 ⑫

7月12日(土) 午後、杏林大学病院の外来棟待合ロビーで、恒例の桐朋学園大学によるコンサートが開かれました。

音楽学部打楽器専攻の学生6人による道化師のギャロップ、美空ひばりメドレーなど9曲が披露されました。

この院内コンサートは1999年の夏に、桐朋学園の当時の役員から「学生、教職員が病院でお世話になっているお礼をしたい」とお話をいただいたのをきっかけに始まりました。

以来毎年4回開かれ、今年で満15年、この日のコンサートが61回目でした。

今では当大学病院に欠かせない名物イベントとなっており、中には看護師に付き添われベッドで人工呼吸器を装

着したままの患者さんもいて、つらい闘病生活の中で心が落ち着きますなどと感謝の言葉をいただいています。

一方、桐朋学園大学の学生たちにとっても患者さんからの拍手に音楽の持つ力を実感する貴重な機会になっており、この日も演奏した学生から「一つひとつの音に対する反応がとてもよく、年配の患者さんに音楽が伝わっているのが感じられました」との感想が聞かれました。

ドイツの哲学者ショーペンハウアーは、音楽とは意志が形になったもの、と語ったそうです。病を治そうとする患者さんやご家族、そして医療関係者の意志をこのコンサートは代弁しているともいえます。地域に開かれた基幹病院として、杏林大学病院は先端医療を提供するとともに、心の癒しにも配慮した活動を続けてまいります。

(人文・社会科学図書館 晝間 大郎)



コンサートのスタイルは毎回様々。上：第61回(2014年7月)、下左から：第58回(2013年10月)、第59回(2013年12月)、第56回(2013年4月)の各コンサートの様子

2014年度 大学行事・イベント (平成26年9月~平成27年3月) ※予定

- 9月12日(金) 卒業式(秋)
- 9月16日(火) 入学式(秋)
- 9月16日(火) 授業開始
- 10月11日(土)、12日(日) 杏園祭(八王子キャンパス)
- 10月11日(土) 杏祭(三鷹キャンパス)
- 11月11日(火) 創立記念日
- 12月27日(土)~1月4日(日) 冬季休暇
- 1月5日(月) 授業再開
- 1月19日(月) 授業終了
- 3月18日(水) 卒業式(春)

*医学部の授業開始・終了、冬季休暇はこれとは異なります



金田一 教授の研究室から ⑫

金田一秀穂(きんだいちひでほ)：1953年東京生まれ。東京外国語大学大学院修了。中国大連外語学院、米イェール大学、コロンビア大学などで日本語講師。1988年より杏林大学外国語学部で教鞭をとる。

恩を仇で報ずること

私の研究室は5階にあって、窓を開けていても、虫とかが上がってくることはめったにない。ところが先日、朝の空気を取り入れて気持ち良く過ごしていたところが、珍客の来訪、大型のスズメバチ。

八王子の山の中の教室では、授業中に大型の虫の入ってくるのがあって、そういう時には韓国からの男子留学生が頼りになる。彼らはたち騒ぐ女子学生の中を平然とかき分けて、造作もなく叩き落として、株を上げる。

ところがこのとき、研究室には頼りない院生しかいない。庶務課に連絡して、来てもらうまで一時部屋から退避することにした。

やがてやって来てくれたのは、帽子をし、メガネをかけて、長袖姿の完全装備の課員さん。一緒になって、おそるおそる部屋に入ってみると、蜂君は、ゆらゆら揺れるブラインドの隙間に止まって、外を見ている。

そのままにしていたら、外へ飛んで行ってくれるかもしれないのだが、待っているわけにもいかず、また戻ってきてしまうかもしれないし、ということで、課員持参の強力殺虫剤のジェット噴射をお見舞いした。あっけ

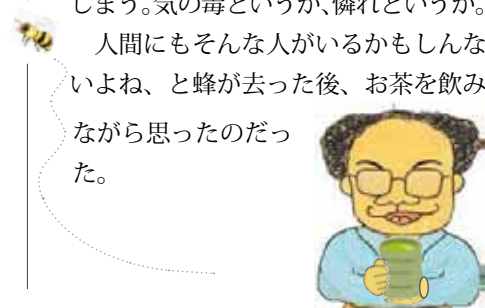
ないほどに、ころりとブラインドから滑り落ち、窓の外へと消えていった。

ほっとしたのだが、後で院生が言うに、あれは可哀そうだった。ちよこっとお尻を押してやったらそのまま外へ飛び出していったのではなかるうか、殺されちゃったのは気の毒だ。

たしかに、そうなのかもしれないけれど、もしもお尻を押していたら、蜂はお尻の針を押した人に毒針を刺し込んで、ひどい目にあわずにちがいない。恩を仇で報ずるとはこのことである。

蜂にとっても、そんなつもりはさらさらないのだ。親切にされたら、感謝したいと思うに違いない。しかし、そこが昆虫の浅ましき。ひとから親切なことをされた経験が生涯ないのだ。周囲の悪意のなかで殺伐とした一生を過ごしてきているのだ。愛情深いお尻の一押しに、強烈な仕返しを思わずしてしまう。気の毒というか、憐れというか。

人間にもそんな人がいるかもしれないよね、と蜂が去った後、お茶を飲みながら思ったのだ。



健康ひとくちメモ ⑫

もうひとつの “シックデイルール”

皆さん、シックデイルール(Sick day rule)という言葉をご存知でしょうか?

通常は、インスリン治療を受けている糖尿病患者さんが、何らかの疾患(かぜ、胃腸炎など)によって食事が十分摂れなくなったときの低血糖予防法のことを言います。たとえば、工夫してカロリー・糖分を補給したり、インスリン量を減らしたりするなどの対処法です。

ここではもうひとつのシックデイルールについてご紹介します。

皆さんの家族のなかには、高血圧、あるいは慢性腎臓病で降圧薬を服用されている方も少なくないと思います。

その様な方が発汗、下痢などで体液喪失を生じたとき、あるいは何らかの理由で十分な塩分・水分が摂れなくなったとき、逆に血圧が下がり過ぎてしまうことがあります。夏場はもともと血圧が下がり傾向となりますので、冬場と同じ降圧薬を漫然と続けていると、知らないうちに低血圧傾向となり、立ちくらみやめまいなどの症状が見られたりします。

降圧薬のなかでもレニン・アンジオテンシン系阻害薬は、塩分摂取量によ



て効果が大きく左右され、注意が必要とされています。腎臓へ行く血流量が低下し、急性腎障害を来たしてしまうこともあり、このような場合はすぐに降圧薬を中止しなければいけません。

具体的な対処法は、まずは家庭血圧をこまめに測ることです。そして、血圧が低くてめまいなどの症状があるとき、一時降圧薬を減量・中止したり、塩分を補給したりすることが必要になって来ます。脱水があれば塩分とともに水分を十分補給します。

夏場、屋外で活動・運動をする予定がある場合、血圧が低めならその日だけ降圧薬を休薬する、というのもひとつの方法です。

もちろん血圧のコントロールや減塩は大事ですが、“過ぎたるは及ばざるが如し”です。主治医の先生とよく相談し、上手な血圧管理を心がけて下さい。

(要伸也：杏林大学病院第一内科(腎臓・リウマチ膠原病内科)教授)

かなめ しんや 東京大学医学部卒業。東京大学医学部附属病院、公立昭和病院勤務、米國ラホーヤ癌研究所(現Burnham研究所)研究員を経て、平成19年より杏林大学医学部第一内科。専門は腎臓・透析・リウマチ膠原病。腎・透析センター長



編集を終えて

- かつて白石孝学部長は「われわれの仕事は人の夢を生きることでもある」と言われました。本号トップ写真は、1980年から学生1人ひとりの成長を見守り、時を刻み続けてきた八王子キャンパスI棟時計塔です。学生の等身大の学びと成長の時間も井の頭キャンパスに引き継がれていきます。(有)
- 新聞編集に追われる8月は国の大学公算プロジェクトの採択時期と重なります。今年も文科省「大学教育再生加速プログラム」に本学申請事業が採択される吉報が飛び込んできました。「グローバル」「地(知)の拠点」に続きこれで3打数3安打。本学のキャンパス移転後の展開にまた弾みがつきます。事業内容はHPでご覧ください。(ふ)
- 編集中間の8月上旬、出雲市で行われた全国教職員卓球選手権大会に出場してきました。エントリーした3種目ともに初戦敗退。来年挑戦したいと思います。最終日は松江で堀川めぐりや酒蔵見学もでき、出雲路は今夏のおよき思い出となりました。(酒)
- 皆さまの感想をお待ちしています。編集部では皆さまの声をこれからの紙面作りに役立てていきます。(酒)

杏林大学新聞編集委員会 編集長 黒田有子 事務局 広報・企画調査室 電話 0422(44)0611 E-mail koho@ks.kyorin-u.ac.jp URL http://www.kyorin-u.ac.jp/